11　名蔵湾保護水面調査報告書（藻場）要約

金本自由生、渡辺利明、照屋忠敬

1　名蔵湾保護水面の概要

保護水面区域：石垣市字崎枝地先６８*ha*

指定年月日：昭和５０年９月１日（農林省告示第８７４号）

増殖対象種：アオリイカ・ハマフエフキ・アイゴ類、ブダイ類

2　名蔵湾水域藻場調査

保護水面区域内のアジ藻場の位置付けを明確にするために、名蔵湾全体の藻場調査を行なった。調査は、昭和５２年６月下旬から９月中旬にかけて実施した。

ア、海草の分布と現存量

名蔵湾沿岸域には、湾口部を除き、巾５０～６００*m*のアジ藻場が途切れることなく帯状に発達している。最も重要なアジ藻場は、名蔵川河口域で、藻場面積が広く現存量も多い。保護水面内のアジ藻場は、面積的にはさ程広くはないが、現存量が非常に多いことと、種類数が多いことで特徴づけられる。

イ、ベントスの分布

一定面積内のベントスをサンプリングする方法と、潜水観察による方法を併用して、小型のベントスと大型ベントスの調査を行なった。この結果、保護水面内で、ヒメジャコ、シラヒゲウニが多いことがわかり保護水面管理の効果が上がっていると思われる。

ウ、魚類の分布

名蔵湾のアジ藻場には少なくとも１４０種以上の魚類が生息しており、最も広範囲に分布し、数量的にも多いアミアイゴがここでの優占種であることがわかった。

3　魚礁設置効果

当保護水面には、現在３種類の魚礁（ヒューム管魚礁・フィルム魚礁・エフィラ魚礁）が投入されている。ヒューム管魚礁では、ハタ類・ブダイ類・クロハギ類などの大型魚の定着がみられ、フィルム魚礁ではギンポ類・ベラ類などの小型魚が観察された。ポリコン魚礁は、投入後間もないので、まだ蝟集する魚類は少ない。

4　水質等環境調査

名蔵湾全体に３１の定点を設け、透明度・水温・ＤＯ・ＰＨ・比重・亜硝酸態窒素・硝酸態窒素・リン酸・ケイ酸・ＳＳの測定と、プランクトン・底質・底棲生物の調査を行なった。調査は、１１～１２月と２～３月の２回実施した。

詳細については、下記別刷で報告した。

金本自由生・渡辺利明・照屋忠敬、１９７８、名蔵保護水面調査報告（藻場）、沖水試八重山支場。